

国際協力について考える「現代社会」の授業

広島県立高宮高等学校

1 活動概要

本校では、公民科「現代社会」の時間を中心に、総合的な学習の時間の学習活動との関連も図りながら、生徒たちに、国際社会の動向を理解させるとともに、国際社会において日本の果たすべき役割や自分たちは何をどうすべきかを考えさせる取組を行っている。

具体的には、ホームルーム活動においてインドネシアに関する異文化理解の授業を行ったり、JICA（国際協力機構）の国際協力推進員による出前講座を取り入れたりしている。また、総合的な学習の時間における『地球市民講座』選択者は、前期にはアメリカ人ALTと、後期にはカンボジア、中華人民共和国及びインドネシアからの外国人講師と国際交流授業を展開している。

2 本実践事例について

(1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校には、元青年海外協力隊帰国教員（インドネシア派遣）が所属していることから、その教員の体験を交えた青年海外協力隊の国際貢献の事例を、学習の中心的な教材として取り上げている。このことにより、生徒が国際社会における課題を身近なものとしてとらえ、課題の本質は何かを深く追究し、我が国の国際貢献の在り方について考察させることができると考えている。

第3学年の生徒には、10・11月に7時間、「現代社会」の「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」の単元において、国際協力に関する授業を本実践を含め集中的に実施した。

「ESD」の視点に立ち、平和などの概念について様々な情報をもとに異なる立場で考えさせ、国際社会の現状について本質を見抜くことができるよう学習を進めている。

(2) 指導のポイント

- ☆ 元青年海外協力隊帰国教員の実験の体験を聞いたり、平和貢献活動の様子を具体的に示す写真やVTRを用いたりすることにより、生徒の関心を高め、国際社会の問題をより身近なものとしてとらえられるようにする。
- ☆ 持続可能な国際貢献活動とするためには、現地の人に受け入れられる協力活動（現地の人々が活動を理解し、受け入れ、現地の人々が動いてくれるようになること）である必要があることに気付かせる。（付けたい力2）
- ☆ 異なる文化の生活・習慣・価値観などについて「どちらが正しく、どちらが誤っているか」という、互いの違いを認めつつ、相手の立場や考えを理解し尊重しながら、協同して課題を解決していく態度を育成する。（付けたい力2、3）
- ☆ 写真やVTRを用いる際には、視聴する際のポイントを示し、課題意識をもたせ、その後の探究活動につなげる。

3 学習指導案

◎本時の授業…本実践は公民科「現代社会」の「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」の単元において青年海外協力隊の国際貢献活動を取り上げて教材化した実践である。

(1) 本時のねらい

青年海外協力隊の活動事例から、日本がアジア圏で行う資金協力以外の国際協力(社会貢献)活動について、平和貢献活動とも関連付けて自己の考えを深めることができる。

(2) 対象学年 第3学年

	学習活動	指導上の留意事項	評価
導入	1 協力隊員としてやって来たのに、「活動する場がない」と言われたら、どうするか考える。 2 VTRを視聴する。 3 学習課題を確認する。 配属先の協同組合が事実上活動停止に陥ったのはなぜだろう。	・VTRを視聴する視点を提示する。 	
展開1	4 協力隊として行った8つの活動をワークシートにしたがって分類する。 5 なぜこんなにたくさんの活動があるのかを考える。	・教育文化, 収入向上, 環境・衛生の3つに分類させる。 ・国際協力を行うためには, 日々の生活の中で, 人々の信用を得ていくことが重要であることに気付かせる。 	
展開2	6 なぜインドネシア人が広島の前爆についてのポスターをつくり, 現地の人々へ熱く語っているのか考える。	・協力してくれたインドネシアの人が広島の前爆に関する平和学習の様子を見て, 自分たちが自分自身の問題としてとらえ, 自分たちが変わらなければならないと認識して活動していることに気付かせる。	○協力した現地の人, この活動に対する姿勢について理解している。
まとめ	7 先輩隊員の配属先は現地の人による活動とならず, 活動停止となったことを知る。 8 国際協力で大切なことは何かを考える。	・現地の人々の理解と協力を得た上で活動を進めるとともに現地の人々が自分自身の問題としてとらえるようになることが, 持続可能な活動となる上で大切であることに気付かせる。	○国際協力において大切なことを自分の言葉で記入している。

4 生徒の反応 (授業後の感想等)

- 赴任先がなくなり, 活動場所が定まらなくても, 自分でできることを見つけていくのはすごいと思った。
- 日本人が技術提供をしてインドネシアの人が自分で物をつくって売れるようになればいいと思う。日本人が一生懸命になって教えても自分から仕事をしてもらえるようにならないと意味がない。日本人は興味をもってもらえるように努力していかないといけないと思う。
- 国際協力は, 協力する側と現地の人々の両方の人々が動くべきだと思う。大切なのは上手くバランスを取りながら援助していくことだと思った。



※ 参考資料, 参考URL

- ・開発教育協会『開発教育 2010 Vol. 57』明石書店 平成22年
- ・『教室から地球へ 開発教育・国際理解教育 虎の巻』独立行政法人 国際協力機構 中部国際センター 平成18年
- ・<http://www.jica.go.jp/> (JICA 国際協力機構)